

第3回高知県教育委員会協議会 会議録

1 開会及び閉会に関する事項

開会 平成28年11月24日(木) 18:30

閉会 19:20

2 場所

高知共済会館 3階「大ホール 桜」

3 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育長	田村 壮児
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員	平田 健一

4 高知県教育委員会事務局の出席した者の氏名

高知県教育委員会

高知県教育委員会事務局	教育次長	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	高等学校課課長	高岸 憲二
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	坂本 寿一
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	松井 竜太
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良
〃	教育政策課課長補佐	隅田 昌宏
〃	教育政策課教育企画担当チーフ	津野 哲生
〃	教育政策課指導主事	石丸 太郎

5 傍聴

36名

6 内容

【開会前事務連絡】

事務局	<p>失礼いたします。開会に先立ちまして、事務局から事務連絡をさせていただきます。2点ございます。</p> <p>まず1点は、本日の資料でございますけれども、傍聴の皆様もご確認ください。1点ございます。ホッチキス止めで、「第3回高知県教育委員会協議会 次第」と記した資料でございます。</p> <p>それから、受付の時に「高知県教育委員会傍聴規則」をお渡ししております。この規則に従いまして、議事進行の妨げになりますような行動、私語、拍手等は謹んでいただきますよう、</p>
-----	---

よろしくお願ひいたします。以上でございます。

【開会】

教育長	<p>定刻となりましたので、ただ今から、校名に関する「第3回高知県教育委員会協議会」を開会させていただきたいと思ひます。</p> <p>本日の議事録への署名人は八田委員、よろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは議事に入る前に、前回の議事録について確認をしたいと思ひますので、事務局から説明をしてもらいたいと思ひます。</p>
事務局	<p>高等学校課企画監です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>資料の1ページの、資料1をご覧いただけたらと思ひます。</p> <p>前回の協議について、ご確認していただくという意味も込めまして、ご説明させていただきます。</p> <p>最初に、2番にございます、校名についての議事協議というところで、(1)にございます、高吾地域拠点校についてご意見をいただきました。</p> <p>委員の方からは、校名が「須崎総合高校」となることで、就職時等に生徒に不利益が出ないように事務局に配慮をしてほしい。また、総合学科の学校と誤解されないように、周知を図ってほしいといったご意見がございました。</p> <p>それに対してまして、事務局の方からは、工業科の内容を確実に引き継ぐ、新しい学校の教育内容を企業、大学等にピーアールにしていきたいという、ご回答をさせていただきました。</p> <p>それから、新中高一貫教育校につきましては、4つの校名候補の中から選ぶということの確認と、それからポイントとなる事項は、3点のほかにはないといった確認をいただきました。</p> <p>それから、その3点につきまして、順次協議をしていただきました。</p> <p>1点目の、「どういう事項を重視して校名を考えるべきか」といったことにつきましては、大学も含めた校名をどのように付けているかを考えた時に、4つのいろんな分類の仕方があるということでお話がありまして、その下にごございますように、新設校の場合は歴史も伝統もないが、今回の統合校は両校関係者が主張しているように、新設校とは違う難しさがあるといったご意見をいただいております。</p> <p>それから次にごございますように、応募の校名には、高知らしさを感じるものや気持ちが伝わる意見が数多くあったと。何を目指した学校なのかを第一に考えたいといったご意見。</p> <p>それから、次にあったご意見としましては、両校の関係者の校名に関する愛着は強い。そのために、両校に配慮していくことが必要ではないかといったご意見。</p>

それから、もし高知西でないとした場合にですけれども、現実的なデメリットとして、一つは4ポツ目にございます懸念としまして、もし高知西の校名がなくなれば、生徒にとって進学等で不利益が出ることになれば大変なことであり、対応が必要となるといったご意見をいただきました。

その点につきまして、めくっていただきまして、資料2ページの事務局と入っておるところに、事務局の方からは、校名が変わったら進学が不利となるということについて、具体的なデータはないが、校名が変わっても教育内容は受け継がれていくことを周知するよう、できる限りの対応をとっていくと、回答をさせていただきました。

それから、ほかにご意見としましては、その次にございますような、新しい中高一貫教育校の教育内容であるとか特色。それから報告書の内容。それから、公募の結果、代表者の方々のご意見を総合的に考えて判断したいというご意見もございました。

それから2点目の、真ん中ほどにございます、「校名に関する検討委員会の優先順位をどう受け止めるか」という点につきましては、委員会を8回、そのうち3回は公募結果を受けて開催しておるということで、十分に尊重したいというご意見。

それから、具体的に数をどう考えるかということについては、分母をどうとるかによって変わるので、評価は随分変わってくるのではないかというご意見がございました。

それから、最後の方にございますように、尊重すべきだとは思いますが、色々な意見をこの協議会の場でも予断を排して考えていきたい。といったご意見もございました。

それから3点目の、「公募の数をどう受け止めるか」ということに対しましては、大変、難しい問題であるということと、それから、運動をされたことに敬意を表すといったことのご意見がございました。

それから、次にございますように、高知西の数を集めた大変さは分かるということと、それから、145候補の内容を重視して判断したいと。

それから、その次にございますように、募集要項で「応募多数の名称が選ばれるとは限らない」としていても、組織力を発揮して集めた。そのことについては、結果的に重みを感じているといったご意見。それから、複数応募がある候補が素晴らしいわけではないといったご意見もございました。

概要は以上のとおりでございます。

教育長

概要の説明は掻い摘んでということなので、全てではございませんけど、基本的には、見ていただくものが全てということですので、掻い摘んでご説明させていただいたということです。

この点について、何か少し違うのではとか、そういうような

各委員	<p>ことはないでしょうか。よろしいですか。</p> <p>(了承)</p>
-----	--

【校名についての協議、決定】

教育長	<p>それでは、確認をいただいたということで、早速、議事の方に入らせていただきたいと思います。</p> <p>本日は、校名について協議し、決定をさせていただくということをご予定しております。</p> <p>この後の進行ですけれども、教育委員会として決定する統合校の校名としては、新中高一貫教育校と、それから高吾地域拠点校の2校ということでございます。</p> <p>決定する順番といたしましては、すでに前回の会議で仮決定をしております「高吾地域拠点校」を先に行って、その後「新中高一貫教育校」の順番で行いたいというふうに思います。</p>
-----	---

ア 高吾地域拠点校

教育長	<p>それでは、高吾地域拠点校についてでございますが、3ページの資料2-1をご覧ください。</p> <p>前回の会議のなかで、この内容についてご了承をいただいております。校名が、「高知県立須崎総合高等学校」ということでございます。</p> <p>一応そういうことで、前回もご了解いただいておりますけれども、なお、本日は決定をする場ということでございますので、確認の意味で、挙手で確認をさせていただきたいというふうに思います。そういうことでよろしいですか。</p>
各委員	(了承)
教育長	<p>はい。それでは、須崎工業高等学校と須崎高等学校の統合校であります、高吾地域拠点校の校名については、県教育委員会といたしまして、「高知県立須崎総合高等学校」とすることに、賛成する委員は挙手をお願いいたします。</p>
各委員	(委員挙手)
教育長	<p>はい、全員挙手でございます。</p> <p>須崎工業高等学校と須崎高等学校の統合校である、高吾地域拠点校の校名については、県教育委員会として、「高知県立須崎総合高等学校」ということで決定をさせていただきたいと思っております。</p> <p>なお、その理由については、前回でも確認しましたように、3ページの校名とする理由欄にあるとおりということですのでよろしいでしょうか。</p>

各委員	(了承)
教育長	はい。特段のご意見もないようですので、選定した理由としては3ページにあるとおりということに、我々としては、させていただきますというふうに思います。

イ 新中高一貫教育校

教育長	<p>それでは次に、新中高一貫教育校についてご協議をお願いしたいと思います。</p> <p>前回の会議で、先ほど議事概要の報告にもございましたけれども、この校名を考えるうえでのポイントなどについてご意見をいただき、それを委員の皆さんでお聞きいただいて、色々と考えていただいたということかと思っております。</p> <p>それでは、これから4ページの資料2-2にございますように、校名に関する検討委員会から報告された、4つの校名候補の中から決めるということについては、すでに前回、ご確認をいただいておりますので、この中から、どれが最適と考えるかということについて、委員の皆様から順次、全員の皆様にご発言をいただきたいというふうに思います。そういうことでよろしいでしょうか。</p>
各委員	(了承)
教育長	はい。それでは、順番でということで、逆時計回りということで、お願いしたいと思います。
委員	<p>それでは、私の考え方を述べさせていただきます。</p> <p>校名ということで、前回お話させていただきましたけれども、場所等を表すもの、今回の候補で言いますと、高知西、高知西南。それから学校の特色を表すもの、工業とか農業とか、今回で言いますと、高知国際というもの。それから思いと言いますか、理念、こういったものを表すものということで、高知立志館という名前が挙がっておると思います。</p> <p>当然、ミックス系というのもあるわけですがけれども、今回の場合は4つの中から選ぶということですから、ミックス系というのではないということでございます。</p> <p>今回、ずっと両校の関係者の皆様、そして検討委員会の議論、こういったものを聴かせていただくにつけ、統合校の名前というのは、私の考えは、場所とか特色というよりも、将来の子どもたちへのメッセージ、グローバルということに志を持って学んでほしいということです。グローバル立志という設立の思いを学校名に込めるということで、「高知立志館」というふうにして、新設校のようにスタートするのがいいのではないかと</p>

	<p>ふうに考えます。これは、検討委員会の順位とは異なりますけれども、このように考えます。</p> <p>私は経営者の立場で、教育委員をやらせていただいていると思っておりますが、まさに当社も海外進出をしており、これからの時代は、若者がどんどん海外に出て行かなければならない時代であります。当社の人材育成方針というのは、自ら考え、判断し、行動するということをごさいますけれども、英語はもちろんであります。生徒自ら考えるということが重要です。</p> <p>前回、委員が申されましたけれども、国際バカロレアの10の学習者像という人材育成方針、これはまさしくグローバル人材の育成ということにつながる、素晴らしい考え方であるというふうに思います。</p> <p>中学生から海外を夢見て、志を立てる子どもたちを育成すること、未来志向で、その思いを校名に込めるということは、大変意義のあることだというふうに考えます。</p> <p>ということで、私の推薦する校名は、「高知立志館」ということをごさいます。以上です。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。それでは、順番にお願いします。</p>
委員	<p>平成28年度の高知県立高等学校の学校概要に掲載されております。南高校の学校の特色ですが、「グローバル社会に対応し、世界に羽ばたく人材を育成するため、長年培ってきたキャリア教育と国際教育を両輪として、これからの国際社会に生きる人間の育成を目指している。生徒が能動的に学習する探究型学習を積極的に取り入れている」とあります。</p> <p>次に、西高校の学校の特色です。「高知の国際教育、英語教育の先駆けとして、様々な国際交流活動や英検などの取得、指導に力を入れてきました。探究姿勢を持った世界に通じるグローバルリーダーの育成と、これを可能とする新しい学校の創造に踏み出しています」とあります。</p> <p>このように、両校とも新中高一貫教育校が一番を目指している、地域や社会、世界とつながる学校という特色を掲げています。</p> <p>前回も申し上げましたように、西高校の関係者の皆様のおっしゃる歴史や数の重みも、大変重く受け止めました。また、有識者の皆様の会議の内容や優先順位も参考にし、総合的に考えて、今回は吸収ではなく、高知県では初めての大規模な統合なので、これからこの学校で学ぶ子どもたちのために、私は、「高知県立高知国際中学校・高等学校」という、新たな校名でスタートしたいと思っております。</p>
教育長	<p>次、お願いします。</p>

委員	<p>私の方は、前回申し上げたように3点観点があって、統合する南中高、それから西高、この両校の関係者の学校への愛着、それから校名への親しみ、こういうものに十分配慮をしなければいけないというのはもちろん、それから仮に、新しい学校名が高知西ではなかった場合、様々な課題があるとすれば、それに十分考慮しなければいけない。3番目に、新しい学校は、グローバル教育を体現するような国際バカロレアを学校の中心に据えて、頑張っていくと。</p> <p>そういう観点で再度、この校名検討委員会の結論をよく考えてみました。それで色々考えた私の結論は、この校名検討委員会が提案していただいたこの候補、それからその優先順位、これが極めて適切な提案であるというふうに私は判断しました。</p> <p>従って、私としては、「高知国際中学校・高等学校」がふさわしいと判断しました。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。では、お願いします。</p>
委員	<p>前回の第2回教育委員会協議会で、どういう事項を重視して校名を考えるべきかとの件で、私は大きく3つの項目を挙げ、考えたいと申しまして、中身には全く触れていませんでしたので、この3点について、私の考えを説明させていただきたいと思います。</p> <p>まず第1点としては、新しい中高一貫教育校の目指す教育内容や特色などからと、説明しました。新しい中高一貫教育校の紹介リーフレットは、グローバル教育推進校をつくることを県民にお約束をして、我が国にはまだ数少ない国際バカロレアを導入するなど、これから求められる国際的な視野を持つ人材育成を前面に出して、学校の特色づくりをしている点を重視しています。</p> <p>両校が今日まで築いて来られた国際教育をさらに大きく発展すべく、国際教育プログラムの導入などは、新しい視点、新しい出発点に立った、新しい中高一貫教育校であると捉えております。</p> <p>次に2点目としまして、校名に関する検討委員会の校名候補に関する報告書と、説明をいたしました。検討委員の皆さんが8回にわたる慎重審議、なかでも、公募結果を受けまして、10月から11月における3回の検討委員会をもって、11月10日に県教育長に提出された校名候補に関する報告書は、私は大変重く受け止めております。</p> <p>4つの候補名とその理由について、応募された方々の声とともに、議論されたであろう内容がよりよく盛り込まれ、よくまとめられ、簡潔に整理をされていると思いました。併せて、優先順位は、委員さん一人一人の議論の集約、新しい校名への思いの集約であり、尊重すべきだと捉えています。</p> <p>次に3点目としまして、公募に関する意見も多く含まれてい</p>

ました、14日に開催されました、第1回教育委員会協議会での校友会など学校関係者の意見と、説明しました。

両校の校友会、保護者代表の方々のご意見を、初めて直接聴きました。学校関係者の思いとして、よく理解でき、重く受け止めました。ただし、私の能力では、いただきました両校の意見の視点、内容の違いを融合して、一つの考えに整理することは困難だと思いました。応募総数の約93%を占めた高知西という校名は、学校を思う気持ちとともに、少し驚きも感じています。

応募数は無視できませんが、校名は新しい中高一貫教育校に入学する子どもたちにとって、自信と誇りを持てる校名とは何か、総合的に考え提案をしたいというふうに考えました。

そこで、総合的に考えまして、私は校名は、高知国際を冠した校名とすることがふさわしいのではないかと考え、提案をいたします。

先ほど説明しました理由と重複もいたしますが、新しい中高一貫教育校は、我が国でも数少ない教育を取り入れ、国際的な人材の育成を目指していること。今回の統合校の校名は、校名を聞いて教育内容が概ね理解できる、目指す教育内容を校名に表すことが良いのではないかと考えました。このことは、検討委員会からの報告書の校名候補の理由としても明確に記されていると思います。

また、新しい教育内容を取り入れることによって、今以上に高い教育をとおして、社会的にも高い評価を受け、子どもたちが入学したい、学びたい学校へ、その結果として、在校生はもちろん、卒業生や保護者、教職員など全ての方々が自信と誇りを持つ学校になることを願いながら、そのことに応えることができる校名であると、「高知国際」を冠することを提案をいたします。以上でございます。

委員

まず私は、結論から申し上げますと、私自身は「高知県立高知国際中学校・高等学校」が最もふさわしいのではないかと考えます。以下、理由を述べさせていただきます。

まず、校名の検討にあたっては、それぞれの置かれた立場、状況によって、様々な意見があって、様々な視点があると思いますけれども、私自身は、これから、この新中高一貫教育校において学ぶ子どもたちにとって、どういった名前がふさわしいのかという視点から考えました。

先ほどから、繰り返しのお話になると思いますがけれども、この新中高一貫教育校というのは、高知県のグローバル教育推進校としてスタートします。これからこの学校で学ぶ子どもたちが受けるグローバル教育というのは、高知、さらには日本という枠を超えた、まさに地球規模の視点から相互理解を深める視点を持てる資質・能力を育てていくことを目指していると、私は受け取っています。これがまさに新校の大きな目標になるだ

ろうと考えています。校名というのは、まさに学校の顔でして、この学校で学んでいる子どもたちが、どういった教育を受け、どういった資質・能力を備えるべく学んでいるのか、高知県規模ではなくて、日本、世界に向けて発信していく必要があるし、日本、世界に知ってもらふ必要があると考えます。

そういった意味で、高知国際という校名は、非常に分かりやすく、その発信力があると考えます。校名に関する検討委員会において、多数の校名候補の中で、高知国際の名前が第一候補として報告されたというのは、その意味からであると私自身は理解しております。この報告には共感をいたします。

一方で、両校の関係者の皆さんのご意見を聴いた際に、高知西の校名を残したいという、西高の関係者のお気持ちを聴かせてもらいました。これだけ西高を思う、多くの関係者の方がいるということは、これまで培ってきた西高の校風、教育、環境の素晴らしさの表れだと思ひ、非常に私自身も悩みました。ただ、先ほど、校名は学校の顔と言いましたけれども、矛盾するようですが、あくまで顔であって、重要なのは中身で、中身が別物になるわけではありません。

私は、新中高一貫教育校の目指す目標が明確に分かって、これを世界に発信できる、この「高知国際」という、この校名がこれから学ぶ子どもたちにとって、最もふさわしいと考えています。以上です。

教育長

どうもありがとうございました。委員の皆さん、それぞれ理由も含めてご発言をいただきました。

結果、4名の方は「高知国際」を推されると、それから委員については、「高知立志館」という名前を推されたいということでございます。

多数が、「高知国際」ということでどうかということでございますけれども、これからは、教育委員会としての、最終的に判断をするということでの協議を進めたいと思ひますが、多数が「高知国際」ということでのご意見でございますので、こちらをベースに話をさせていただいたら、というふうに思ひますが、委員、今4名の委員の皆様からのご発言があったわけですけれども、この「高知国際」ということで、同調するということはどうでしょうか。

委員

私は私の思いで、いわゆる形よりも、そういう思いを校名に表すということがいいのではないかと、熟慮の末、決めさせていただきました。

ただ、お聞きしておりますと、4名の方が「高知国際」という校名を推されておりますし、検討委員会の結論もそういうことでございますので、これはまあ、私の考えを主張するばかりでもいけないと思ひますので、これはもう従います。

<p>教育長</p>	<p>はい。それでは、委員につきましても、「高知国際」でもかまわないというご意見でございます。</p> <p>私の方も、まだ全く発言をしておりませんが、皆さんのお考えをそれぞれ聞かせていただいて、言われることの妥当性ということも、受け止めもさせていただいたということかと思っております、意見がまとまるのであれば、「高知国際」ということにしてはどうかというふうに考えます。</p> <p>特に、もしそういうことで、進めさせていただくということによろしければ、確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。</p>
<p>各委員</p>	<p>(了承)</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、新中高一貫教育校の校名につきまして確認をさせていただきますと思います。</p> <p>高知南中学校・高等学校と高知西高等学校の統合校である、新中高一貫教育校の校名について、県教育委員会として、「高知県立高知国際中学校・高等学校」とすることに、賛成する委員は挙手をお願いいたします。</p>
<p>各委員</p>	<p>(委員挙手)</p>
<p>教育長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>全員挙手ということで、全員一致でこの校名については、「高知県立高知国際中学校・高等学校」ということで決めさせていただきますと思います。</p> <p>なお、教育委員会として、この校名に決めさせていただいた理由といいますか、観点につきましては、前回、3つのポイントということで示させていただいて、今日もご意見をいただいたわけですが、結果として、「高知国際中学校・高等学校」ということになったということから、翻って考えてみますと、一つ目の、どういったポイントについて考えるべきかということについては、色々、委員からもお話があったように、校名を考える際に伝統とか、あるいは知名度、あるいは立地場所といったようなことを考慮して決めるという考え方も、もちろんあるわけですが、今回については、その新しい新中高一貫教育校の教育内容であるとか、教育目標であるとか、それはグローバル教育の推進ということに、一言ではなるかと思っておりますけれども、そういったことを体現できるような名前にしていきたいという大方のお考えであったかなど、いうふうに受け止めさせていただきました。</p> <p>それから2点目の、校名に関する検討委員会の優先順位についてということですが、これは、基本的には優先順位について尊重するということは、基本的にはあったと思っておりますけれども、最終的にこれは、十分に検討委員会のなかで議論してき</p>

	<p>た重みを尊重したうえで、この優先順位についても尊重させていただいたということになっているのではないかと思います。</p> <p>それから3点目の、公募の数を、特に高知西、あるいは西という校名候補が公募の中で95%も占めたという、その重さをどう受け止めるかということについてでございますけれども、皆さんとしても、その数自体は大変重く受け止めたと、尊重もさせていただきたいということは当然の前提として、ただ、今申し上げた、こういったことを重視して校名を考えるべきかとか、あるいは、校名に関する検討委員会の優先順位をどう受け止めるかということ覆すことには、ならないのではないかとということで、こういった判断をさせていただいたということかなと思っておりますけれども、そういうことでよろしいでしょうか。</p> <p>特段、私の今申し上げたことに付け加えるということは、ないということよろしいですか。</p>
各委員	(了承)
教育長	<p>はい。それと、具体的な理由については、資料の4ページの校名に関する検討委員会からの報告書で、理由を整理していただいておりますので、基本的にはこういうことで、我々としても、よろしいのではないかとこのように思っておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>特段、付け加えたりということは、よろしいでしょうか。</p>
各委員	(了承)
教育長	<p>それでは、校名に関する検討委員会で十分議論をしていただき、整理をしていただいた理由ということでございますので、我々としても、先ほど言ったことに加えて、直接的な理由については、こういうことで整理をさせていただきたいというふうに思います。</p> <p>それでは、皆様のおかげで、校名を県教育委員会として決定させていただいたわけでございますけれども、この際、委員の皆様から特にご発言があればお願いをしたいというふうに思いますが、いかがでございましょう。</p>
委員	少しよろしいですか。
教育長	どうぞ。
委員	私だけが少し意見が違ったわけなんですけども、ずっとこの検討委員会、そしてまた、両校の関係者の思いを聴かせていただきまして、この協議会に臨んだわけなんですけども、例が悪いかもしれないけれども、先のアメリカ大統領選挙で、分断というふうなことが言われて、それに対して、ヒラリー・クリント

	<p>ン候補が素晴らしい挨拶を、未来志向でいくべきというふうなことを挨拶されましたけども、そんな分断というようなことは、懸念は当然ないと思いますが、こういう今日の席で最終決定がなされたわけですので、ラグビーでいうところのノーサイドというふうなことで、両校の関係者の皆様が、子どもたちのために未来志向で、いい学校づくりを力を合わせてやっていただきたいというふうに、本当に切に切に思う次第でございます。そのことを言わせていただきたいと思えます。以上です。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。はい、どうぞ。</p>
委員	<p>今回の件で両校の校友会や保護者の代表の方々から、意見を聴かせていただきました。私も前職が教員という立場でございまして、それぞれの思いはその学校を思う気持ちばかりで、良く分かります。</p> <p>しかし結果が出まして、ご心痛を察しているところも、現在でございます。まだ正式に校名が決まるまでは手続きもあるように聞いておりますが、新中高一貫教育校として、校名が決まれば、その校名のもとに両校の熱い思いが重なり合って、より一層新しい学校を支える学校関係者として、熱い思いを寄せていただけるものだと考えておりますけれども、お願いもしたいと思っております。</p> <p>併せて各校では、生徒、教職員が日々、教育活動を行っております。今回の件が、各学校内でどのような状況にあるのかは、私は全く知りませんが、少し心配もしております。なければよいのですが、もしあれば、教育委員会事務局は特段のご支援とご配慮をお願いしたいというふうに思っております。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございました。ご懸念の点については、しっかりと対応していかなければならないというふうに思います。</p> <p>そのほか、委員の皆様から、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>途中でも申し上げたように、両校の関係者の皆様の気持ちに、とにかく配慮したいと思いました。今回は特に、西高の関係者の皆さんが、これだけの団結力をもって、色々活動されたことにお応えできなかったのは、本当に申し訳ないなということです。</p> <p>それと、この新しい学校ですけれども、今から歴史が始まるのではなく、もちろん、今から新しい学校としても歴史は始まりますが、これまでの西高校の歴史のうえにあって、しかも南中高の歴史のうえにあって、新しい学校が始まるということです。</p> <p>歴史も伝統もなくなるのではなく、ここから一緒に積み上げていく歴史がスタートするというので、これまで両校ともに</p>

	<p>いろいろな努力をされて、いい学校をつくって来られたので、これからさらに新しい挑戦をしていこうと思っていますので、その時に、この2つの学校のこれまでの努力とか、いろいろな伝統、歴史というのは、非常にしっかりした礎になってくれるものと確信しています。ぜひ両校の皆さんが、ご協力いただけるようお願いしたいと思います。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございます。よろしいですか。</p>
委員	<p>これまで、西高、それから南校の関係者の皆さんからお話を聴いてきて、それぞれの立場で異なる意見を聴かせていただきました。</p> <p>個人的な話になりますが、私自身が統合により、母校の名前を無くした経験もあります。個人的には本当に、なぜ名前が残らないのかっていうことを悔しく思い、なぜだと思った時期もありました。</p> <p>でも、今、元気に通っている子どもたちを見て、楽しそうに通っている子どもたちを見て、このなんとも言えないこだわりは、もう私の胸に抑えておくのがいい。むしろ、今のこれからの子どもたちが、どのように教育を受け、どのように羽ばたいていくのかっていうことが大事なんだなというのを、身を持って体験をしたということがありまして、今回、先ほどお話をした視点から、校名というのを考えました。</p> <p>ぜひとも、それぞれやはり、立場が違えば意見も違うというなかで、今後は新しい学校に向けて力を合わせて、ぜひとも、教育委員会も力を最大限に発揮して、両校の関係者にもご協力をいただいて、素晴らしい学校にしていきたいなと思っています。</p>
教育長	<p>はい、ありがとうございます。</p>
委員	<p>本当に西高校の関係者の皆様のご意見は、本当に私は重く受け止めました。やはり、これからの子どもたちのためのことを思うと、新しい名称でスタートを切った方が、私はよいと思いましたがし、南高校の国際科、西の英語科、これを一緒にした、よい学校になると思っています。</p> <p>スクールカラーについても、南がスカイブルー、西は青ですので、こういった両校の共通点をよい方向にいかし、前向きに、これからは考えていただきたいと思っていますので、ぜひよい学校になるように、両校の関係者の方々もよろしくお願いします。</p>
教育長	<p>それぞれ委員の皆様、結果として全員の皆様からお話をいただいて、本当にありがとうございます。</p> <p>それでは、ほかに特にないようでしたら、この後は、本日決定をした校名をもとに、12月の県議会において、関係条例を改</p>

正するという手続きに入らせていただきたいというふうに思っております。

特にご意見がないようでしたら、こういった形で2つの統合校について校名を決定し、終了させていただきたいと思いますが、最後に私の方からも、お礼も含めてご挨拶申し上げたいと思います。

統合校の校名決定のための教育委員会協議会を3回行いましたけれども、今回が最終回ということで、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

まず、委員の皆様には、先ほどからご発言もいただき、また決定もしていただきましたけれども、大変悩まれた、心苦しまれた結果で、ご決定をいただいたということかと思っております。誠にお礼を申し上げたいと思います。

また、統合関係の対象となった学校の皆様方におかれましては、本当にこのことに興味を持っていただきまして、ご意見も様々ないただき、またこういった形で傍聴にもおいでをいただいたということで、感謝を申し上げたいというふうに思います。

振り返ってみますと、この校名の問題というのは、平成26年に高等学校再編振興計画の検討がスタートした時点から、懸案課題ということでずっと続いてきたものでございます。

この間、まずはそういった校名について、関係者の皆様の大変熱い思いがあるということ、そういったことも受けまして、まず再編振興計画においては、統合することの必要性和、それから統合したうえで、こういった学校を目指すのかということについて、まずは決定をさせていただきたいといたしました。

そこで、校名については、その決定後改めて、ゼロベースで議論をし、決定をさせていただきたいということをお願いをし、まずは、その統合の再編振興計画自体を決定をいただいたということでございます。

その後、校名の検討をスタートさせたわけですがけれども、その際、我々県教育委員会として一番心がけましたのは、この校名について、様々なご意見があるということを受けて、できるだけ客観的に、また公正性を確保し、また議論については、極力オープンな形で議論をさせていただくとさせていただきました。

そういうような検討過程を、十分、関係の皆様にもお知らせしたうえで、結論を出させていただきたいということで、進めさせていただきました。

そういったこともございまして、まずは第三者からなる校名に関する検討委員会を立ち上げて、検討委員の皆様にも、主体的にご検討をいただいたということでございます。

2月から11月までの間、9カ月にわたって、合計8回の検討をいただきました。ここでは、実際に学校を見に行っていたり、また県民の皆様などから公募もいただくと、そういったことも受けて、慎重に手順を尽くし議論をいただいたという

ことです。

その結果をこの11月10日に、県教育委員会にいただいたということをございまして、我々としては、その結果を受けて、この3回、検討させていただき、先ほどお聞きいただいたとおりの結論に至ったということをございます。

この結論については、まず須崎の2校、須崎高等学校と須崎工業高等学校、こちらについては、両校の関係の皆様が話し合いをしていただいて、校名候補を1本に絞っていただいたということもございまして、検討委員会の方でも、すんなりと一つの候補を選んでいただいて、我々としても、それを受けて、ある意味候補を非常に決定しやすかったということをございまして、このことについて、両校の関係者の皆様に、本当にお礼を申し上げたいというふうに思います。

一方で、この新中高一貫教育校、高知南中高等学校と高知西高等学校の統合になる学校の校名については、本当に皆様の熱い思いを聴かせていただきました。

特に、高知西高校の関係の皆様には、校名についての要望活動といったこともされておられましたし、それから、校名の公募についても、西高校あるいは高知西高校というような、数が集まったということにも表れているように、大変、高知西高校という名前を残すことに、熱い思いを持っておられる方が本当に多いということを、我々としてもひしひしと感じ入ったところをございます。

先ほど、委員の皆様からもお話があったように、そのことを我々としても、本当に重く受け止めたうえで、最終的にどうするかということについて悩みに悩んで、苦渋の決断ということで、今回の「高知国際中学校・高等学校」という名前を決定させていただいたということをございまして、この点について、正直、ご納得いただけないという方も多いたとは思いますが、我々としては、手順を尽くして議論をさせていただいたと。それから我々も本当に悩んで決定をさせていただいたということについて、ぜひご理解を賜りたいというふうに思います。

この統合後の校名、先ほどの委員さん、それぞれからもお話がございましたけれども、どういう名前になろうとも、これまでの卒業生の皆さん、あるいは在校生の皆さんの母校になるということには違いがないわけをございますので、それぞれ今の学校に寄せていただいている本当に熱い思いを、新しい校名になっても、ぜひ引き続きお寄せをいただきたいと、このことを伏してお願いを申し上げたいと思います。

我々、県教育委員会といたしましては、新しい統合校において、教育内容の充実を図り、在校生、あるいは卒業生の皆さんが誇りを持てるような、そういうステイタスの高い学校をつくりあげていくということで、ぜひ皆さま方の思いにも応えていきたいというふうにも考えておりますので、その点、ご理解のうえ、今後とも、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

	以上で、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。
--	-------------------------------------

【閉会】

田村教育長	それでは、以上で、校名に関する高知県教育委員会協議会の協議を全て、終了させていただきたいと思います。 どうもありがとうございました。
-------	---